

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	香川大学
設置者名	国立大学法人 香川大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/zaimu/
収支計算書又は損益計算書	大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/zaimu/
財産目録	公開していない
事業報告書	大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/public/foundation/business/
監事による監査報告(書)	大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/public/foundation/audit/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:国立大学法人香川大学 年度計画 対象年度:各年度毎に作成)
公表方法:大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/files/8815/9048/4257/R2nendokeikaku.pdf
中長期計画(名称:国立大学法人香川大学 中期計画 対象年度:平成28年度~令和3(平成33)年度)
公表方法:大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/files/3915/2323/3482/3keikaku30..pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/self_assessment/self-check/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/self_assessment/evaluation-uni/
--

- (3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要
- ①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 教育学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
<p>（概要）香川大学教育学部は、香川師範学校・香川青年師範学校を母体に、1949年に香川大学学芸学部として発足し、1966年に教育学部と改称され今日に至っており、卒業生は、広く教育界で活躍しています。</p> <p>今日の学校教育の現場には、急激な社会の変化の中で、教科に関する新しい学力をどのようにつけるか、子どもたち一人一人の自己実現をどのように支援できるかなど、人間形成に関するきわめて重要で魅力的な課題があります。また急速な少子・高齢化、情報化社会の進展、切実さを増す環境問題、多文化社会における共生の在り方などの問題は、生涯にわたる教育の必要性和新たな教育的課題を生み出しています。このような教育に関する課題に柔軟かつ積極的に対処できるように、現在、教育学部では「人間の発達・形成に関する教育研究を基礎に、教育に関する総合的な教育研究を行い、教育実践力を有する学校教育教員及び広く教育界で活躍できる人材を養成する」ことを学部目的として定めています。</p> <p>長い歴史の中でつちかかってきた豊富な教育研究の成果を背景に、新しい時代の要請に応えようとするのが、教育学部の理念です。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
<p>香川大学教育学部学校教育教員養成課程では、その教育理念に基づき、豊かな人間性と教職への強い使命感をもつとともに、社会の変化やニーズを適切に踏まえ、学校教育が抱えるさまざまな現代的な教育課題に協働して対処することができる、専門的知識と実践的指導力を備えた教員を養成します。本課程を修了し、本学が送り出す学士（教育学）・21世紀型市民として身につけるべき能力・態度の到達基準は、次のとおりです。</p> <p>言語運用能力</p> <ul style="list-style-type: none"> *日本語の言語表現を適切に理解し、自らの見解を口頭や文章でわかりやすく伝えることができる。 *一つ以上の外国語において、基礎的な能力を身につけている。 *子どもをはじめ他者との共感的なコミュニケーションをとることができる。 *教育に関わる自らの専門領域の魅力や可能性について、専門用語を用いて伝えることができる。 <p>②知識・理解（21世紀型市民及び学士（教育学）として）</p> <ul style="list-style-type: none"> *人類の文化、社会及び自然について幅広く基礎的な知識やスキルを持ち、論理的に考察できる学問的基礎を身につけている。 *教員として必要な教科及び教職に関する基本的な知識やスキルを身につけている。 *教員として必要な授業実践に関する基本的な知識やスキルを身につけている。 *子どもの多様性と教育プロセスの複雑性について理解している。 <p>③問題解決・課題探求能力</p> <ul style="list-style-type: none"> *21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求できる。 *学校や学級、子どもの実態、また様々な教育の現実から、課題を探り出すことができる。 *自らの教育実習等での授業実践を振り返り、自己の課題と可能性について探求でき

<p>る。</p> <p>④倫理観・社会的責任</p> <p>*市民としての責任ある行動をとり、社会において自己の担うべき役割について探求する姿勢を身につけている。</p> <p>*教員として必要な倫理観や道徳を身につけ、社会の創造的な形成者として、教育を担うことができる。</p> <p>⑤地域理解</p> <p>*国際的な視野を持ち、ローカルスケールから大陸スケールに至る重層的な地域の概念を理解している。</p> <p>*地域の一般的な特性を理解するとともに、「地元」の独自性を説明できる。</p> <p>*地域理解と自らの専門領域を関係づけることができる。</p> <p>⑥教職に対する使命感</p> <p>*教育への情熱をもち、教員としての資質能力を高め、自ら成長しようとする姿勢を身につけている。</p> <p>*多様な教育論を踏まえて、教職の意義について理解している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要）香川大学教育学部学校教育教員養成課程は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を育成するために、全学共通科目（32単位以上）と学部開設科目（109単位以上（幼児教育コース）及び103単位以上（小・中学校教育コース））から構成される教育課程を編成・実施します。学部開設科目の内訳は、専門科目〔基礎研究〕（16単位以上）、同〔実践研究〕（42単位以上）、同〔発展研究〕（24単位以上）です。進級に関する要件はありませんが、3年次の必修科目である「教育実習」を受講するには、2年次までに60単位以上習得している等が条件となります。卒業要件単位数は141単位以上（幼児教育コース）及び135単位以上（小・中学校教育コース）です。</p> <p>ディプロマ・ポリシーの各項目の達成は、以下に示す体系的教育をもって実現します。</p> <p>①言語運用能力</p> <p>全学共通科目のコミュニケーション科目によって基礎となる語学力向上を図ります。2年次及び3年次配当の専門科目の「保育実習」「保育実習指導」（幼児教育コース）、「教職実践プレ演習」（小・中学校教育コース）、「教育実践演習」「教育実習」（共通）では、コミュニケーション能力やプレゼンテーションスキルを修得し、4年次配当の「卒業研究」「保育・教職実践演習」においては、専門分野における言語運用能力を修得します。</p> <p>②知識・理解（21世紀型市民及び学士（教育学）として）</p> <p>教養及び基礎的知識獲得のため、全学共通科目の学問基礎科目を学び、教育的視野・視点を涵養するため、1年次配当の専門科目〔基礎研究〕の「教職概論」を履修します。「教職概論」ではグループワークが取り入れられ、教職に関する知識・理解を深めます。主に2年次及び3年次には、専門分野に関する基礎知識を修得するため、専門科目〔基礎研究〕、〔実践研究〕、〔発展研究〕の幼児・小学校・中学校教育関連科目を履修します。PBL（Project Based Learning）型教育も取り入れられている〔発展研究〕の各教科の教科指導法や指導法の科目（2～4年次配当）、〔実践研究〕の各科目（1～3年次配当）、「卒業研究」では、それぞれの専門分野の総合的学力を培います。</p> <p>③問題解決・課題探求能力</p> <p>全学共通科目の主題B「現代社会の諸課題」や「大学入門ゼミ」においては、基礎的な問題発見・解決の方法を学びます。2年次配当の「保育実習」「保育実習指導」「教育実習プレ演習」では、教育現場における専門分野に関する問題解決・課題探求につ</p>

いての理解を深めます。3年次及び4年次配当の「教育実践演習」「教育実習」では演習や学校現場等での実習を通じて、また「保育・教職実践演習」では具体的な課題を考察し、探求力を養います。4年次の「卒業研究」では、PBL型教育を通して、学生がそれぞれの具体的な課題に取り組み、総合的学力を高めます。

④倫理観・社会的責任

全学共通科目の主題A「人生とキャリア」において21世紀型市民としていかに生きるかを学び、全学共通科目「大学入門ゼミ」と学部開設科目「教職概論」をはじめとする諸科目で教職における倫理観・社会的責任を学びます。2年次の学部開設科目「保育実習」「保育実習指導」（幼児教育コース）、「介護実践演習」「教育実践プレ演習」（小・中学校教育コース）では、現場に接することによって、より深く倫理観・社会的責任を自覚します。更に、3年次及び4年次の「教育実践演習」「教育実習」「保育・教職実践演習」では、インターシップにより、倫理観・社会的責任を身につけ、社会人としての役割を担うことを学びます。「ボランティア活動」は全学年で履修可能であり、倫理観・社会的責任を体験的に学びます。

⑤地域理解

全学共通科目の主題C「地域理解」で地域理解への動機づけがなされ、一定の学部専門教育を受けて重層的な地域概念を理解した上で、高年次配当の実習科目「社会研修」「教育実践演習」「教育実習」「特別教育実習」を履修し、地域と専門領域との関連についての理解を深めます。全学年を通じて履修可能な「ボランティア活動」「多文化交流実践研修」では体験的に地域理解を深めます。これらの科目では、実習、PBL、グループワークなど様々な教授方法が取り入れられ、より実践的に地域や教育現場の課題を理解します。

⑥教職に対する使命感

1年次配当の学部開設科目「教職概論」では学校理解を、2年次配当の「保育実習」「保育実習指導」（幼児教育コース）、「介護実践演習」「教育実践プレ演習」（小・中学校教育コース）では子ども理解を、3年次配当の「教育実践演習」「教育実習」では授業理解を、4年次配当の「保育・教職実践演習」「特別教育実習」では教職理解を、それぞれ増進させます。1年次の「教職概論」は4年間の教職に関連した科目全体を俯瞰する授業を行い、4年次の「保育・教職実践演習」は締めくくりとして卒業後の教職を見据えます。これらの授業をはじめとする教職関連の各授業は、キャリア教育の内容を含みます。全学年で履修可能な「ボランティア活動」でも、教職に対する使命感が涵養されます。

以上の学修成果については、厳格な成績評価（5段階評価、GPAの活用）を行います。基本的に講義科目では修得した知識の理解度で、演習・実習科目では知識を教育現場に応用出来る能力や教育現場での対応力で、卒業研究では課題の設定や解決の実践的能力の総合評価で実施します。また、「⑥教職に対する使命感」に関して、各学生に冊子「教師になるための学びの計画と履歴」が配布され、学生は、1年次から4年次にかけて必要事項を記入していくことで、教師に求められる資質の修得状況を自己評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表

https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/)

（概要）大学入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。

①知識・技能

* 高等学校等における幅広い学習に裏付けされた知識・技能の総合力と学ぶ力

②思考力・判断力・表現力

* 学校教育において、問題解決するための論理的思考力や判断力、根拠に基づいた科学的思考力や批判的思考力

* 多面的な視点から思考し、自分の考えを他者にわかりやすく伝える表現力

<p>③主体性・多様性・協働性</p> <p>*主体的に多様な他者とかかわり、他者の意見や価値観を尊重し相互理解に努めようとする協働性やコミュニケーション能力</p> <p>④関心・意欲・態度</p> <p>*学校教育に高い志と強い関心を持ち、継続して意欲的に課題に取り組むことができる能力</p> <p>*様々な課題にチャレンジする積極性を持ち、経験の積み重ねを通して将来へのビジョンの構築に努める能力</p> <p>⑤倫理観・社会的責任</p> <p>*教育者として、また社会の構成員としての自覚と責任を持ち、自己が果たす役割や倫理観・社会的責任を理解できる能力</p> <p>◇大学入学までに修得が期待される内容</p> <p>ボランティア活動や学校内外での諸活動で教育に関する何らかの実践を経験するなど、子どもの理解と教育に携わる意欲を持ってください。</p> <p>教育者として他者の意見や価値観を尊重し、他者を思いやることのできるコミュニケーション能力が必要とされるので、幅広い視野と主体性・協働性を養い、自分の考えを表現できるような力を身につけておいてください。</p>
--

<p>学部等名 法学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要）香川大学法学部は、四国で唯一の国立大学法学部であり、高等裁判所をはじめとする重要な官公庁の位置する地の利を活かし、全国的にも高い評価を受ける教育研究を行うことを目指しています。</p> <p>香川大学法学部は、開かれた自由で民主主義的な社会を支える公共的市民を育てます。</p> <p>さらに、法学的素養を備えた専門職業人を養成します。</p> <p>夜間主コースにおいては、社会人としての幅広い判断力や、専門実務能力である政策遂行能力を育成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要）香川大学法学部では、その教育理念に基づき、開かれた自由で民主主義的な社会を支える公共的市民、法学的素養を備えた専門職業人を育成します。すなわち、世界の多様性とそこから生ずる諸問題を把握し、その解決に向けての法律学・政治学の基本的理念の知識を適切に用いて自他の尊厳を守ることができる人間を育成します。本学部を修了し、本学が送り出す学士（法学）・21世紀型市民として身につけるべき能力・態度の到達基準は次の通りです。</p> <p>①言語運用能力</p> <p>*国際的視野を持ち、外国語での読み書きなどのコミュニケーションのための基礎的能力を身につけている。</p> <p>*法学・政治学分野において求められる基礎的な文章技術、対話作法を修得している。</p> <p>②知識・理解（21世紀型市民及び学士（法学）として）</p> <p>*法学・政治学の分野で求められる正義、人権、自由、平等などの基本理念について基礎的知識を修得している。</p> <p>*実定法分野・政策科学分野の概要及び主要な解釈理論と争点について基礎的知識を修得している。</p> <p>*さらに、これらの基礎的知識を一般社会人に対して説明する能力を身につけている。</p> <p>*学問に対して積極的に取り組み、自らの興味関心を形成することができる。</p>

③問題解決・課題探求能力

- *21世紀社会において市民に求められる歴史・文化の知見を身につけている。
- *紛争解決のための基礎的スキルを修得している。
- *自ら問題点を見出し、解決に向けた手段、手続きを見出すことができる。
- *政策的課題の発見と実務的な解決を探る能力としての政策マインドと政策的な課題解決のための基礎的スキルを身につけている。

④倫理観・社会的責任

- *専門的職業人、公共的市民としての倫理観・社会的責任の自覚を形成している。
- *権利の主体として、また公共的市民として自他を尊重すべきことを自覚している。
- *公権力や社会的権力の濫用を監視し、適切に問題解決に努めるべきことを理解する。

⑤地域理解

- *地域社会の現状に関心を持ち、その法的・政策的課題を発見しあるいは理解するための基礎的な知識を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）

（概要）香川大学法学部は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を育成するために、全学共通科目（昼間 34 単位以上・夜間主 28 単位以上）と学部開設科目（昼間 94 単位以上・夜間主 96 単位以上。昼間コースの内訳は、必修科目「演習」6 単位、選択必修科目 16 単位以上、選択科目 30 単位以上、自由科目 42 単位以上・夜間主コースはすべて自由科目）から構成される教育課程を編成・実施します。卒業要件単位は昼間コース 128 単位以上・夜間主コース 124 単位以上とします。

ディプロマ・ポリシーの各項目の達成は、以下に示す体系的教育をもって実現します。必修科目である「演習」を履修するためには、法学部が定める演習履修要件を満たすことが必要です。

①言語運用能力

全学共通科目のコミュニケーション科目により、基礎となる外国語能力向上を図ります。続いて、学部開設科目においては、「実務英語」「外書講読」「海外研修」により、より高度なコミュニケーション能力の修得に努めます。

さらに、法学・政治学に必要なコミュニケーション能力の向上を図るため、「大学入門ゼミ」及び、法学部の特徴である少人数科目「プロゼミ（前期）」「プロゼミ（後期）」「演習」によって専門分野における言語運用能力の習得をはかります。一部の少人数教育では、社会問題に基づいた解決策を考える、法学的な PBL（Problem Based Learning）を行っています。

②知識理解（21 世紀型市民及び学士（法学）として）

全学共通科目では、幅広い知識を身につけます。主に学問基礎科目の履修によって、法学・政治学以外の分野にも幅広い知識を持ちます。

専門科目では、法学・政治学の基礎的知識の習得のため、まず、入門科目群（履修推奨科目）を学びます。さらに 2 年次以降では、公法系科目（憲法、行政法系科目）、私法系科目（民法、商法系科目）、政治系科目を学び、専門的知識の習得、専門的応用力を養います。

同時に、「平和学」「アジア・太平洋社会論」「政治史」「比較政治」や、「国際関係論」「国際法Ⅰ」「国際法Ⅱ」「国際法Ⅲ」「国際私法」「国際取引法」の履修によって、グローバルな場面にも対応できる専門知識を涵養します。

③問題解決・課題探求能力

法学部では、問題解決、課題探求の力を養うために、4 年一貫の少人数教育を取り入れています。特に、「大学入門ゼミ」では、様々な社会事象に対して考察を加えるための法学・政治学的なアプローチの方法を学んでいきます。

法学・政治学は、すべて社会に存在する実際的问题を解決する学問です。法学・政治学を学ぶことは、全体として、問題解決・課題探求能力の向上に役立ちます。中でも特

に、「刑事訴訟法Ⅰ」「刑事訴訟法Ⅱ」「民事訴訟法Ⅰ」「民事訴訟法Ⅱ」のいわゆる訴訟法系科目は、問題解決の手続きそのものであり、専門的な問題解決について学ぶこととなります。

また、「法哲学」「法社会学」「比較法」「法制史」のいわゆる基礎法科目は、法の基礎となっている考え方、法が昔から抱えている問題などを学べ、課題探求能力の涵養に役立ちます。

④倫理観・社会的責任

法は、最低限の倫理であり、法学を学ぶことは、全体として、倫理観・社会的責任の涵養に役立ちます。そうして獲得された倫理観・社会的責任を「インターンシップ」の中で実際に社会の現場で就労体験をして、実際の社会の中でどのように役立てるかを学びます。

このような能力は、全学共通科目主題A「人生とキャリア」でも養われます。

⑤地域理解

全学共通科目の主題C「地域理解」によって地域の問題の基礎を学びます。さらに、「寄付講座 土地境界と表示登記」「寄付講座 地域財務金融行政」「提供講座 損害保険の実務と法」によって、地域の法律実務家、金融実務家が直面する実践的問題について学んでいきます。

以上の学習成果の評価は、基本的に講義科目では修得した知識の理解度、身につけたリーガルマインドの深さで、「演習」をはじめとする少人数科目では、専門分野に対する習熟度、学修に対する取り組み度合いで、「卒業論文」は、研究内容や形式について教員ごとに設定する単位認定方針に沿った総合評価で実施し、厳格な成績評価（5段階評価、GPAの活用）で行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表

https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/)

（概要）◇入学者に求める学力・能力・資質等 大学入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。

①知識・技能 *高等学校等における幅広い学習に裏付けされた知識及び技能の総合力と学ぶ力

②思考力・判断力・表現力 *物事をさまざまな角度からとらえ、筋道を立てて考える能力 *紛争解決及び政策立案のために必要な論理的な思考力と判断力 *文章や議論の中で自分の意見を積極的にかつ説得力を持って表現できる能力 *相手の意見からも学び、議論をリードし発展させることのできる能力

③主体性・多様性・協働性 *主体的に多様な他者とかかわり、他者の意見や価値観を尊重し相互理解に努めようとする協働性やコミュニケーション能力

④関心・意欲・態度 *正義と衡平を追求しそれらを社会に実現しようとする意欲と態度 *現代社会の動きに常に関心を持ち、書物や新聞を通して、広く社会で生じていることに対する問題意識を深め、自分の意見を形成できる能力

⑤倫理観・社会的責任 *社会の構成員としての自覚と責任を持ち、自己が果たす役割や倫理観・社会的責任を理解し、自律的に行動できる能力

学部等名 経済学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表

https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/)

（概要）経済や経営に関する世界水準の研究教育活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献することを理念とします。学士課程では、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と経済や経営に関する専門知識や多様な価値や文化に対する深い理解に支えられた課題探求能力を備え、国際的な視野で地域社会において活躍できる進取の気象と共生の精

<p>神に富んだ教養豊かな経済人を育成することを目指します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要）教育理念に基づき、経済や経営に関する専門知識を基に、望ましい社会の実現に向けて、諸課題の探求・解決にあたる能力・技能を身につけ、崇高な倫理観と人間性に富み、地域に根ざしながら世界と連携し共生する進取の気象に富んだ教養豊かな経済人を育成します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要）全学共通科目（32単位以上）と学部開設科目（92単位以上、内訳は、学部基礎科目（22単位以上）、学部専門科目（20単位以上）、コース専門科目（20単位以上）、自由科目（20単位以上）、プロゼミナール（2単位）、演習（4単位）、卒業論文（4単位））から構成される教育課程を編成・実施します。3年次に演習を履修するためには、所定の科目を26単位以上修得していることが条件となります。卒業要件単位数は124単位以上とします。（昼間コース）</p> <p>全学共通科目（28単位以上）と学部開設科目（96単位以上、内訳は、学部基礎科目（6単位以上）、コース専門科目（86単位以上）、演習Ⅰ（4単位））から構成される教育課程を編成・実施します。3年次に演習Ⅰを履修するためには、所定の科目を22単位以上修得していることが条件となります。卒業要件単位数は124単位以上とします。（夜間主コース）</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要）入学者に求める学力、能力、資質等として以下のとおり示している。</p> <p>①知識・技能 *経済の仕組み、企業の活動、世界の社会・歴史などに関する専門性の高い学問を学び、研究活動を実践するための、高等学校等における幅広い学習に基づいた知識・技能・理解能力</p> <p>②思考力・判断力・表現力 *経済・社会におけるさまざまな現象において、解決を必要としている問題を発見・探求し、自分の考えを論理的にまとめて、他者にわかりやすく伝える思考力・判断力・表現力 *情報伝達の高度化・迅速化が進む社会において、必要な情報を収集・分析し、自ら情報を発信することができる能力</p> <p>③主体性・多様性・協働性 *柔軟な視野にたつて社会と積極的にかかわり、コミュニケーション能力を備え、多様な価値観を理解できる主体性・多様性・協働性</p> <p>④関心・意欲・態度 *経済・社会に関するさまざまな現象に興味を持ち、従来の考え方にとらわれず積極的に新しい物事に取り組んでいこうとする関心・意欲・態度</p> <p>⑤倫理観・社会的責任 *グローバル化する社会において、地域に根ざしながら世界と連携し共生するために、自己が果たすべき社会的責任や備えるべき倫理観を理解し体現する能力)</p> <p>◇大学入学までに修得が期待される内容 高等学校等において学ぶ、英語、数学、国語を中心とした基礎学力を身につけていることが必要です。英語の基礎学力は、大学において、国際的なコミュニケーション能力を本格的に養うために必要です。数学の基礎学力は、数学的な推理能力や論理的な能力を必要とする専門科目の講義を受けるために必要です。国語の基礎学力は、講義やゼミナールで文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するため</p>

に必要です。また経済・社会に対する関心を高め、論理的思考力を養うために普段から新聞を読んだり、読書習慣を身につけたりすることも重要です。

さらに主体性・多様性・協働性を養うために、文化活動、スポーツ活動、生徒会活動、クラブ活動、海外留学体験、ボランティア活動などに励むことも推奨します。加えて、国際的なコミュニケーション能力を養ったり、教養を育んだり、実務的な処理能力を高めたりするために、英語検定、簿記検定、漢字検定などの検定や資格の取得に励むことも推奨します。

学部等名 医学部医学科

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表

https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/)

（概要）医学に関する問題を的確に把握し、その問題を自主的、積極的かつ総合的に解決するために必要な基本的知識及び基本的技術を修得する。

生涯を通じて自己学習する基本的態度・習慣を身につけ、自らを正しく評価できる客観的判断能力を養う。

医療を単に疾病の治療として把握するにとどまらず、予防・リハビリテーションをも含む包括的なものとしてとらえ、その背景にある精神的・社会的諸問題と関係づけて考える総合的な視野を養う。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表

https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/)

（概要）香川大学医学部医学科では、教育理念に基づき、医学を学ぶ上で必要な幅広い基礎的知識を基に、疾病の予防、診断、そして適切な治療ができる最新の医学的知識と診療能力・技能を身につけ、崇高な倫理観と人間性に富み、地域を理解し、世界に通用する医師並びに医学研究者を育成します。本学科を修了し、本学が送り出す学士（医学）・21世紀型市民として身につけるべき能力・態度の到達基準は、次のとおりです。

①言語運用能力

*医療現場・研究領域において適切なコミュニケーションを実践できる。

*患者に対して傾聴・共感の姿勢を持ち、患者中心の医療を実践できる。

*医療チーム・研究グループの一員として、時としてリーダーシップを発揮し、多職種連携による医療・研究を実践できる。

*国際的視野を持ち、世界標準の医療・医学研究に関する情報を収集できる。

②知識・理解（21世紀型市民及び学士（医学）として）

*特定分野にとらわれない幅広い教養、基礎科学・社会環境・病態生理に立脚した医学的知識を有している。

*症候から鑑別診断・確定診断にいたる、根拠に基づいた臨床推論を実践できる。

*医療現場における安全・安心に立脚した基本的診療能力・技能を有している。

③問題解決・課題探求能力

*医学の学びの中、あるいは臨床現場において、自ら問題点を見出し、解決することができる。

*積極性・向上心を持ち、自己主導型学習を実践できる。

④倫理観・社会的責任

*医師・医学研究者として、倫理観・使命感・責任感を持ち、省察的態度をもって行動ができる。

*専門職として生涯にわたり研鑽に努める姿勢を持っている。

*法令・社会的規範を遵守し、社会の一員として行動ができる。

⑤地域理解

*地域の保健・医療・福祉の実情を理解し、介護・福祉施設と緊密に連携して地域医療

に積極的に参加できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
（概要）卒業の認定に関する方針に示した人材を育成するために、全学共通科目（31単位以上）と学部開設科目（160単位以上、内訳は、専門基礎科目（15単位）、早期医学（10単位以上）、学際医学（2単位以上）、基礎医学（30単位）、社会医学（6単位）、統合講義等（40単位）及び臨床医学（57単位））から構成される教育課程を編成・実施します。卒業要件単位数は191単位以上とします。階層的カリキュラムを実質化するため、年次ごとの進級要件を定め、年度末に厳格な進級判定を行っています。講義科目では修得した知識と理解度を基本とし、実験・実習科目では知識を応用出来る能力と専門的技術・技能の習熟度を基本とし、厳格な成績評価（5段階評価、GPAの活用）を行います。ただし、「早期医学実習Ⅰ」など自由科目では、「了」でもって合格とします。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
（概要）大学入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。 ①知識・技能 * 医学の専門知識と技能を習得するための基盤となる、高等学校等における幅広い学習に裏付けされた知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 * 情報の収集と評価、それに基づく自らの意見形成のための論理的思考力と判断力、及び形成した意見を他者へわかりやすく伝え、実行に移すための表現力 ③主体性・多様性・協働性 * 医学に関する問題を自ら抽出し、多面的な視点から考察し、他者と協力して問題解決に当たるために必要な主体性・多様性・協働性 ④関心・意欲・態度 * 進歩を続ける医学、医療の専門知識と技能に対する関心、生涯にわたりそれを学び続ける意欲、そのために必要な自己主導型学習態度 ⑤倫理観・社会的責任 * 尊い人命を預かる医療者として、また、医学と医療の継承と発展を担う医学者として求められる高い倫理観 * 医師・医学研究者としてのみならず社会の一員としても法令や社会的規範を遵守して行動できる社会性

学部等名 医学部看護学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
（概要）看護の対象である人間としての権利と自由を尊重し、思考力、判断力、行動力を高めることができる能力を養う。 看護の問題を総合的に判断し、解決できる基本的な知識及び看護実践能力を養う。 生涯を通じて自己啓発し、看護を批判的に分析し、建設的・創造的に発展させることのできる基礎的能力を養う。 看護活動を通して教育、研究、管理を担い、及び国際貢献ができる能力を養う。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
（概要）香川大学医学部看護学科では、教育理念に基づき、生命の尊重を基本として、看護の問題を総合的に判断し解決できる知識や実践能力を養い、国際的な幅広い視野

で地域保健医療の向上に寄与できる看護職者を育成します。本学科を修了し、本学が送り出す学士（看護学）・21世紀型市民として身につけるべき能力・態度の到達基準は、次のとおりです。

①言語運用能力

*対象者の意思決定を支えながら、実施する看護の根拠や方法に理解を得るためのコミュニケーション能力を身につけている。

*チーム医療の中で、多職種と協働・連携できる能力を身につけている。

*国際的視野を持ち、諸外国の看護に関する情報を収集する基礎的能力を身につけている。

②知識・理解（21世紀型市民及び学士（看護学）として）

*人間理解に必要となる幅広い視野と知識を基盤とし、看護の対象を包括的に捉える専門的・学際的知識と技術を有している。

*根拠に基づいた看護を実践するための理論的知識や批判的思考を備えている。

*安全・安心で効果的な看護を提供するための基本的能力・技術を有している。

③問題解決・課題探求能力

*対象の健康課題を評価して、専門的知識と技術を基礎に解決することができる。

*看護の学びの中で、自らの課題を見つけ探求することができる。

④倫理観・社会的責任

*看護職として、対象の多様な価値観や信条及び生活背景を尊重し、擁護する姿勢を身につけている。

*専門職として生涯にわたり研鑽に努める姿勢を持っている。

*法令・社会的規範を遵守し、社会の一員として行動できる。

⑤地域理解

*地域の保健・医療・福祉に関心を持ち、看護の役割やあり方を理解して、地域に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）

（概要）香川大学医学部看護学科は、卒業の認定に関する方針に示した人材を育成するために、全学共通科目（28単位以上）と学部開設科目（99単位以上、内訳は、専門基礎科目（26単位）、専門科目（73単位））から構成される教育課程を編成・実施します。卒業要件単位数は127単位以上とします。さらに養護教諭課程を編成・実施します。卒業要件に加えて、養護教諭課程は31単位修得していることが資格取得条件となります。

学修成果の評価は、基本的に講義科目では修得した知識の理解度で、演習・実習科目では知識を応用出来る能力と専門的技術・技能の習熟度で、看護研究ではテーマの設定、分析、論文作成の総合評価を実施し、厳格な成績評価（5段階評価、GPAの活用）で行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）

（概要）大学入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。①知識・技能

*高等学校等における幅広い学習に裏付けされた知識・技能の総合力と学ぶ力

②思考力・判断力・表現力

*看護の対象を包括的に捉え、問題解決するための論理的思考力や判断力、根拠に基づいた科学的思考力や批判的思考力

*多面的な視点から思考し、自分の考えを他者にわかりやすく伝える表現力

③主体性・多様性・協働性

*主体的に多様な他者とかかわり、他者の意見や価値観を尊重し相互理解に努めよう

<p>とする協働性やコミュニケーション能力</p> <p>④関心・意欲・態度</p> <p>*人々の健康を支援するために看護に高い志と強い関心を持ち、継続して意欲的に課題に取り組むことができる能力</p> <p>*看護専門職として国内外を問わず社会に発信し、生涯にわたり学び続ける態度</p> <p>⑤倫理観・社会的責任</p> <p>*尊い人命を預かる看護専門職者として、また社会の構成員としての自覚と責任を持ち、自己が果たす役割や倫理観・社会的責任を理解できる能力</p>
--

<p>学部等名 医学部臨床心理学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要）人間と人間を取り巻く環境についての幅広い基礎知識の上に、心理学・臨床心理学の専門的知識と技能を修得する。</p> <p>心理学・臨床心理学に加えて医学の基礎を学び、医療・保健分野を中心とした実習経験を積むことで、心理学・臨床心理学と医学を相互に関連付ける基本的技能と能力を修得する。</p> <p>地域の相談者に対して傾聴する技能、共感的なコミュニケーションの技能、心の問題を説明する上での心理学・臨床心理学上の実証的な研究方法を修得する。</p> <p>心理臨床における責任感と倫理観を身につけ、さまざまな人間の心の問題を理解し、多職種連携・協働の観点を踏まえつつ、適切な援助が出来る基本的技能と能力を修得する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要）香川大学医学部臨床心理学科では、教育理念に基づき、心理学及び臨床心理学の体系的な知識、心理臨床における基礎的实践力とともに医学的素養を有し、援助的コミュニケーション能力を発揮して、医療・教育・福祉等の分野で多職種連携・協働ができる資質を持った心理援助者を育成します。本学科を修了し、本学が送り出す学士（臨床心理学）・21世紀型市民として身につけるべき能力・態度の到達基準は、次のとおりです。</p> <p>①言語運用能力</p> <p>*人間性を尊重した対人支援の態度を持ち、共感的コミュニケーションを実践することができる。</p> <p>*クライアントや患者を中心にして、多職種と連携・協働しようとする態度を身につけている。</p> <p>*国際的視野を持ち、世界標準の心理学・臨床心理学領域の研究に関する情報を収集することができる。</p> <p>②知識・理解（21世紀型市民及び学士（臨床心理学）として）</p> <p>*心理学・臨床心理学の基礎知識を有している。</p> <p>*医療・保健、教育、福祉等の心理臨床の現場において、心理援助者が必要とする基礎的知識・技能を有している。</p> <p>*心理援助者が必要とされる職場における心理援助者の役割を説明することができる。</p> <p>*身体と精神が相互に関連していることを理解するとともに、心理援助者にとって重要な疾患、障害についての知識を有している。</p> <p>*21世紀を生きる市民が必要とする幅広い教養を有している。</p> <p>③問題解決・課題探求能力</p>

<p>*心理学・臨床心理学の学びの中、あるいは心理臨床の現場において、自ら問題点を見出し、解決することができる。</p> <p>*心の問題に対して実証的な研究方法を適用することができる。</p> <p>*積極性・向上心を持ち、自己主導型学習を実践することができる。</p> <p>④倫理観・社会的責任</p> <p>*心理援助者として倫理観・使命感・責任感を持ち、省察的態度をもって行動することができる。</p> <p>*専門職として生涯にわたり研鑽に努める姿勢を持っている。</p> <p>*法令・社会的規範を遵守し、社会の一員として行動することができる。</p> <p>⑤地域理解</p> <p>*地域社会における医療・保健、教育、福祉等の現状と課題に関心を持ち、心理援助者の専門的役割と関連付けて理解することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要）香川大学医学部臨床心理学科は、卒業の認定に関する方針に示した人材を育成するために、全学共通科目（36単位以上）と学部開設科目（98単位以上、内訳は、専門基礎科目（19単位）、専門科目（79単位以上））から構成される教育課程を編成・実施します。卒業要件単位数は、134単位以上とします。進級に関する要件はありませんが、「臨床心理学基礎研究Ⅰ・Ⅱ」、「心理実習Ⅰ（心理支援実習）」、「臨床心理学研究Ⅰ・Ⅱ」、「心理実習Ⅱ（チーム医療実習）」及び「卒業研究」を受講するには、医学部が定める要件を満たすことが必要です。</p> <p>学修成果の評価は、講義科目では修得した知識と理解度を基本とした評価を実施し、演習・実験・実習科目では講義科目で修得した知識を心理臨床の現場に応用できる能力と援助的なコミュニケーション能力の習熟度を基本とした評価を実施し、卒業研究では課題の設定や解決の実践的能力を核とした総合評価を実施し、厳格な成績評価（5段階評価、GPAの活用）を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要）大学入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。</p> <p>①知識・技能</p> <p>*高等学校等における幅広い学習に裏付けされた知識・技能の総合力と学ぶ力</p> <p>②思考力・判断力・表現力</p> <p>*人間の心理を深く理解し支援するための論理的思考力や判断力、根拠に基づいた科学的思考力や批判的思考力</p> <p>*多面的な視点から思考し、自分の考えを他者にわかりやすく伝える表現力</p> <p>③主体性・多様性・協働性</p> <p>*主体的に多様な他者とかかわり、他者の意見や価値観を尊重し相互理解に努めようとする協働性やコミュニケーション能力</p> <p>*他者の気持ちを敏感に感じ取る感受性や共感的コミュニケーション能力</p> <p>④関心・意欲・態度</p> <p>*心理的援助に高い志と強い関心を持ち、継続して意欲的に課題に取り組むことができる能力</p> <p>*人間尊重の態度や深く温かい眼差しを持ち、他者との関わりを通して、自己理解を深め、自らの潜在的な資質を成長させようとする意欲</p> <p>*大学卒業後もさらに高度な心理的援助の実践力を身につけ、心理援助者として、地域に貢献し、社会に役に立ちたいという意欲</p> <p>⑤倫理観・社会的責任</p>

*人間の健康、適応、成長に関わる心理援助者として、また社会の構成員としての自覚と責任を持ち、自己が果たす役割や倫理観・社会的責任を理解できる能力

学部等名 創造工学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表

https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/)

（概要）創造工学部は、人間とその生活を取り巻く自然に焦点を当て、人間と自然が調和的に共生できる文化・安全・産業の創造を目指し、専門的基礎能力に裏打ちされた幅広い工学のバックグラウンドを持ち、国際社会で尊敬される良き市民としての個性豊かな技術者を育成することを目指す。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表

https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/)

（概要）創造工学部では、工学の基礎と専門分野にかかわる幅広い知識を持ち、技術者相互および社会と適切なコミュニケーションを行うことができ、さまざまなリスクを考慮しつつ、高い倫理観を持って新たな価値を創造することができ、地域を愛し、世界に通用する技術者を育成します。本学部を卒業し、本学が送り出す学士（工学）・21世紀型市民として身につけるべき能力・態度の到達基準は、以下のとおりである。

①言語運用能力

- *論理的かつ客観的な文書を作成することができる。
- *多様な情報を適切に利用し、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。
- *工学的な課題について、基礎的な数理法則を用いて分析することができる。
- *英語による情報収集能力、コミュニケーション能力を持っている。
- *国際的視野を持ち、世界標準の科学技術に関する情報を収集できる。

②知識・理解（21世紀型市民及び学士（工学）として）

- *自然科学の基礎知識を持ち、その基本原理を理解している。
- *工学的課題を解決するために必要な工学的基礎知識を修得している。
- *人間、社会、環境、美などの多角的な視点を備えている。

③問題解決・課題探求能力

- *自主的、継続的に学習し、新たな課題を探求することができる。
- *様々なリスクを把握・抽出し事前に対応策を講じ、想定外の事態にも対応することができる。
- *専門分野において課題を認識し、多様な制約の下で、専門知識、技術を用いてチームとして問題を検討し、製品と利用者・社会との相互作用的な関わり及びリスク対応を含めた総合的な価値の創造につながる設計（デザイン）を企画、立案し、それを試作評価することができる。

④倫理観・社会的責任

- *市民としての社会的責任を自覚して行動することができる。
- *高い倫理観を持ち、技術者としての社会的役割を担うことができる。

⑤地域理解

- *地域の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて問題を発見し、探求することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表

https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/)

（概要）創造工学部は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を育成するために、全学共通科目（32単位以上）と学部開設科目（96単位以上、内訳は、共通科目（14単位以上：その内、倫理1単位、コミュニケーション能力4単位以上、デザイン思考能力4単位以上、リスクマネジメント能力3単位以上）、専門科目（68単位以上）、卒業研究又は卒業制作（8単位）、及び自由科目（6単位以上））

から構成される教育課程を編成・実施する。3年次後期より研究室に配属されるためには、3年次前期までに所定の科目を84単位以上修得していることが必要である。卒業要件単位数は128単位以上とする。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
<p>（概要）創造工学部では、大学入学までに、以下のような、入学者に求める学力・能力・資質等を備えている人を求めている。</p> <p>①知識・技能 *高等学校等における国語、外国語、数学、理科などを中心に、幅広い学習に裏付けされた本学部の専門領域を学ぶために必要な基礎学力・技能</p> <p>②思考力・判断力・表現力 *本学部の専門領域の分野を多角的かつ包括的に捉え、それぞれの問題を解決するための論理的思考能力や判断力、根拠に基づいた科学的思考力や批判的思考力 *物事を多面的な視点から思考し、自分の考えを他者からもわかりやすく伝える表現力</p> <p>③主体性・多様性・協働性 *主体的に多様な他者とのかかわり、他者の意見や価値観を尊重し相互理解に努めようとする協働性やコミュニケーション能力</p> <p>④関心・意欲・態度 *本学部の専門領域のいずれかの分野に興味関心を持って自ら積極的かつ継続的に課題に取り組む意欲と審美眼を持ち、身につけた知識・技術を分かりやすく表現し、共生環境創造、地域社会創造及び国際社会に役立てる意欲・態度 *技術者として国内外を問わず社会に発信し、生涯にわたり学び続ける態度</p> <p>⑤倫理観・社会的責任 *本学部の専門領域における技術者として、また社会の構成員としての自覚と責任を持ち、自己が果たす役割や倫理観・社会的責任を理解できる能力</p>

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
（概要）工学部は、人間とその生活を取り巻く自然に焦点を当て、人間と自然が調和的に共生できる科学技術の創造を目指し、文理融合の理念の下に、専門的基礎能力に裏打ちされた幅広い工学のバックグラウンドを持ち、国際社会で尊敬される良き市民としての個性豊かな技術者を育成することを目指す。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
<p>（概要）工学部では、人間とその生活を取り巻く自然に焦点を当て、人間と自然が調和的に共生できる科学技術の創造を目指し、文理融合の理念の下に、専門的基礎能力に裏打ちされた幅広い工学のバックグラウンドを持ち、国際社会で尊敬される良き市民としての個性豊かな技術者を育成する。</p> <p>工学部を修了し、本学が送り出す学士（工学）・21世紀型市民として身につけるべき能力・態度の到達基準は、次のとおりである。</p> <p>①言語運用能力 *論理的かつ客観的な文書を作成することができる。 *多様な情報を適切に利用し、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 *工学的な課題について、基礎的な数理法則を用いて分析することができる。 *英語による情報収集能力、コミュニケーション能力を持っている。 *国際的視野を持ち、世界標準の科学技術に関する情報を収集できる。</p>

<p>②知識・理解（21世紀型市民及び学士（工学）として）</p> <ul style="list-style-type: none"> *自然科学の基礎知識を持ち、その基本原理を理解している。 *工学的課題を解決するために必要な工学的基礎知識を修得している。 *人間、社会、環境についての多角的な視点を備えている。 <p>③問題解決・課題探求能力</p> <ul style="list-style-type: none"> *自主的、継続的に学習し、新たな課題を探求することができる。 *専門分野において課題を認識し、その解決に向けて企画、立案し、遂行することができる。 *多様な制約の下で、専門知識、技術を用いて、必要に応じ他者と協力して問題を解決することができる。 <p>④倫理観・社会的責任</p> <ul style="list-style-type: none"> *市民としての社会的責任を自覚して行動することができる。 *工学倫理に則って、技術者としての社会的役割を担うことができる。 <p>⑤地域理解</p> <ul style="list-style-type: none"> *地域の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて問題を発見し、探求することができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要）工学部は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を育成するために、全学共通科目（32単位以上）と学部開設科目（96単位以上、内訳は、工学基礎科目（22単位以上：多角的思考能力8単位以上、コミュニケーション能力6単位以上、数理的基礎能力8単位以上）、専門科目（60単位以上）、卒業研究（8単位）、及び自由科目（6単位以上）から構成される教育課程を編成・実施する。3年次後期より研究室に配属されるためには、3年次前期までに所定の科目を84単位以上修得していることが必要である。卒業要件単位数は128単位以上とする。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要）工学部では、大学入学までに、入学者に以下のような学力・能力・資質等を備えている学生を求める。</p> <p>①知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> *自然科学や人文・社会科学など諸科学の基礎を学び、研究活動を実施するために必要な、高等学校等における幅広い学びから育成される工学的基礎知識・技能 <p>②思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> *従来の狭い工学分野の枠組みにとらわれることなく、人間、社会、自然、人工物という工学の対象をグローバルな視点から正しく理解し、顕在化した課題について、多角的視点で思考、判断できる力 *これらグローバルかつ多面的な視点での思考、判断した自分の考えを、他者にわかりやすく伝える表現力 <p>③主体性・多様性・協働性</p> <ul style="list-style-type: none"> *グローバルな視点を持って主体的に社会に貢献し、社会・地域とのコミュニケーション能力及び国際社会とのコミュニケーション能力を備え、多様な価値観を理解できる主体性・多様性・協働性 <p>④関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> *工学の分野に関するさまざまな現象に興味関心を持ち、身につけた知識・技術を、地域社会及び国際社会に役立てていこうとする関心・意欲・態度 <p>⑤倫理観・社会的責任</p> <ul style="list-style-type: none"> *工学の社会的役割を理解して諸問題を解決するという責務をもつ技術者・研究者として、また、社会の構成員としての自覚と責任感を持ち、自らが果たすべき役割や倫

理観・社会的責任を理解できる能力

学部等名 農学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
（概要）先端的かつ総合的な生物科学を基礎に、自然と調和した安全で快適な地域社会を実現するための教育と研究を行い、豊かな人間性と国際的な視野、課題探求能力を備え、生物資源の生産と活用に関する科学と技術を総合的に理解し、生物科学を基盤とする産業界で幅広く活躍できる有為な人材を養成することを目指します。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
（概要）生物資源の生産と活用に関する幅広い知識と技能を身につけ、科学的な思考に基づく課題設定力、国際感覚を備えた判断力及びコミュニケーション力を備え、多様で広範な社会の諸課題の解決に向けて柔軟な思考によって取り組むことのできる「農学の実践力」を持って国際的協働社会の一員として自覚的に行動出来る人材を育成します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
（概要）卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を育成するために、全学共通科目（32単位以上）と学部開設科目（92単位以上、内訳は、導入科目（8単位）、共通基礎科目（19単位以上）、5コースに分かれた専門科目とコース実験科目（50単位以上）、高年次配当の展開科目（3単位以上）及び課題研究（12単位））から構成される教育課程を編成・実施します。2年次後期よりコース分属するためには、2年次前期までに所定の科目を20単位以上、また3年次後期より研究室に分属するためには3年次前期までに所定の科目を72単位以上（必須科目あり）修得していることが条件となります。卒業要件単位数は124単位以上とします。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
（概要）高等学校において、理科、数学、国語、英語を中心とした基礎学力を身につけておいてください。先端的かつ総合的な応用生物科学を理解し、生物資源の生産と利用に関する専門科目を学ぶために理科と数学の基礎学力が必要となります。農学部では、生物資源の生産と利用に関する情報を理解し、自らの論理的思考及び判断をもってこれを説明できるプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を養うことを目標としています。これらを日本語だけでなく英語でも可能にするために国語と英語の基礎学力が必要です。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.kagawa-u.ac.jp/files/3615/6342/9808/kyouiku.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
教育学部	—	48人	30人	1人	人	人	79人
法学部	—	19人	6人	人	人	人	25人
経済学部	—	25人	18人	3人	人	2人	48人
医学部	—	57人	38人	7人	73人	人	175人
創造工学部	—	49人	25人	10人	7人	人	91人
農学部	—	33人	20人	人	5人	人	58人
地域マネジメント研究科	—	8人	4人	人	人	人	12人
附属病院	—	4人	6人	27人	56人	人	93人
その他	—	7人	11人	4人	人	人	22人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
人			343人				343人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://www.kards.kagawa-u.ac.jp/search/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
教育学部	160人	165人	103.1%	680人	738人	108.5%	人	4人
法学部	160人	156人	97.5%	660人	697人	105.6%	10人	5人
経済学部	250人	270人	108.0%	1,090人	1,136人	104.2%	20人	10人
医学部	189人	191人	101.0%	999人	1,024人	102.5%	15人	4人
創造工学部	330人	331人	100.3%	1,010人	1,025人	101.5%	20人	9人
工学部	人	人	%	280人	356人	127.1%	人	人
農学部	150人	150人	100.0%	600人	633人	105.5%	人	人
合計	1,239人	1,263人	101.9%	5,319人	5,609人	105.7%	65人	32人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
教育学部	206人 (100%)	7人 (3.4%)	187人 (90.8%)	12人 (5.8%)
法学部	167人 (100%)	8人 (4.8%)	143人 (85.6%)	16人 (9.6%)
経済学部	308人 (100%)	6人 (1.9%)	283人 (91.9%)	19人 (6.2%)
医学部	177人 (100%)	4人 (2.3%)	162人 (91.5%)	11人 (6.2%)
工学部	257人 (100%)	98人 (38.1%)	154人 (59.9%)	5人 (2.0%)
農学部	152人 (100%)	45人 (29.6%)	104人 (68.4%)	3人 (2.0%)
合計	1,267人 (100%)	168人 (13.3%)	1,033人 (81.5%)	66人 (5.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
教育学部	201人 (100%)	185人 (92.0%)	15人 (7.5%)	1人 (0.5%)	0人 (0.0%)
法学部	171人 (100%)	148人 (86.5%)	19人 (11.1%)	3人 (1.8%)	1人 (0.6%)
経済学部	310人 (100%)	276人 (89.0%)	26人 (8.4%)	6人 (1.9%)	2人 (0.6%)
医学部 医学科	109人 (100%)	92人 (84.4%)	16人 (14.7%)	1人 (0.9%)	0人 (0.0%)
医学部 看護学科	60人 (100%)	55人 (91.7%)	3人 (5.0%)	2人 (3.3%)	0人 (0.0%)
工学部	274人 (100%)	217人 (79.2%)	44人 (16.1%)	12人 (4.4%)	1人 (0.4%)
農学部	154人 (100%)	140人 (90.9%)	10人 (6.5%)	3人 (1.9%)	1人 (0.6%)
合計	1,279人 (100%)	1,113人 (87.0%)	133人 (11.9%)	28人 (21.1%)	5人 (17.9%)
(備考) 農学部入学者のうち1名は経済学部へ転学部したため、その他に計上。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
全ての授業科目について授業計画を作成し、授業実施の前年度に年間の授業計画とともに公表している。授業計画には、成績評価の方法を明示し厳格に単位認定をしている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
成績評価の基準と方法を授業科目毎にシラバスに明示し、学習成果を厳格に評価し単位を認定している。				
卒業認定についても、学部毎に認定方針、卒業要件を定め公表し、それらに基づき現確認判定している。				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
教育学部	学校教育教員養成課程 幼児教育コース	141 単位	有・無	年 50 単位
	学校教育教員養成課程 小学校教育コース 中学校教育コース	135 単位	有・無	年 50 単位
	学校教育教員養成課程 小学校教育コース 特別支援教育分野	137 単位	有・無	年 50 単位
法学部	法学科(昼間コース)	128 単位	有・無	年間 44 単位 各学期 26 単位
	法学科(夜間主コース)	124 単位	有・無	年間 52 単位 各学期 30 単位
経済学部	経済学科(昼間コース)	124 単位	有・無	1.2 年次年間 48 単位 3.4 年次年間 44 単位
	経済学科(昼間コース) (改組前)	124 単位	有・無	1 年次は年間 48 単位 2 年次以降は年間 44 単位
	経営システム学科 (昼間コース)	124 単位	有・無	1 年次は年間 48 単位 2 年次以降は年間 44 単位
	地域社会システム学科(昼間 コース)	124 単位	有・無	1 年次は年間 48 単位 2 年次以降は年間 44 単位
	経済学科(夜間主コース)	124 単位	有・無	なし
	経済学科(夜間主コース) (改組前)	124 単位	有・無	なし
	経営システム学科 (夜間主コース)	124 単位	有・無	なし
	地域社会システム学科(夜間 主コース)	124 単位	有・無	なし
医学部	医学科	191 単位	有・無	なし
	看護学科	127 単位	有・無	なし
	臨床心理学科	134 単位	有・無	なし
創造工学部	創造工学科	128 単位	有・無	24 単位
工学部	安全システム建設工学科	128 単位	有・無	22 単位
	電子・情報工学科	128 単位	有・無	22 単位
	知能機械システム工学科	128 単位	有・無	22 単位
	材料創造工学科	128 単位	有・無	22 単位
農学部	応用生物科学科	124 単位	有・無	年間 48 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：大学ホームページにて公表 学生の理解度・到達度を客観的に測り、特待生の選考や履修単位の登録上限、早期卒業判定等に活用している。 https://www.kagawa-u.ac.jp/campus-life/about-class/about-record/		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.kagawa-u.ac.jp/access/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
昼間 (教育学部、法学部、経済学部、医学部、創造工 学部、農学部)		535,800 円	282,000 円	0 円	
夜間主 (法学部、経済学部)		267,900 円	141,000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 以下の支援を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー制度：学生からの学習・生活上の相談に応じるため、1年次から、10～30人程度の学生に対して、それぞれ担当の教員をアドバイザーとして配置しています。 ・オフィス・アワー：学生の授業内容等に関する質問・相談に応じるため、教員が必ず研究室に在室している時間帯を設けている。 ・新入生対象合宿オリエンテーション：合同新入生同士の交流や、教員・上級生との交流によって、入学後できるだけ早く大学教育・大学生活に慣れてもらうため、新入生対象の合宿オリエンテーションを実施している。 ・新入生対象修学相談会：毎年、新入生を対象として、「修学相談会」を実施している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア支援センターにて、就職ガイダンス(説明会)開催、相談員による個別就職相談、求人・インターンシップ・OB・OG情報等の提供等を行っている。 全学共通科目にて、選択必修として、キャリア教育に関する授業科目を開講している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健管理センターにて、学生一人一人が充実した学生生活を送れるようサポートすることを目的に、心理相談(カウンセリング)を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.kagawa-u.ac.jp/public/foundation/6628/>